# 母公開特許公報(A) 昭62-29570

(1) Int.Cl.	識別記号	庁内整理書号 7242-4C	<b>②公開</b>	昭和62年(	198	37) 2 月 7 日
C 07 D 207/44 A 61 K 31/40 31/415	ABF	1242 40				
31/42 31/425 31/495 31/54	AED	※零査請求	文 未請求	発明の数	1	(全16頁)

砂発明の名称 3,5ージイソプロピルペンジリデン複素環式化合物

⊕特 顧 昭60-167999⊕出 顧 昭60(1985)7月29日

直博 明石市太寺1-6-20 仓発 明 者 今 井 高砂市西畑3丁目8番14号 白 石 忠義 砂発 明 者 部 男 神戸市垂水区千鳥が丘3-22-31 砂発明者 勝見 勝 治 神戸市須磨区高倉台8-14-10 砂発明 者 山 下 姫路市大塩町925の9 母発 明 者 有木 量 俊章 加古川市新神野8-16-1 山下 ⑦発 明 者 大阪市北区中之島3丁目2番4号 體湖化学工業株式会社 ①出 屧 人 弁理士 茂野 真一 砂代 理 人

最終頁に続く

· · · · · ·

#### 9 20 2

 発明の名称 8.5 - ジイソプロビルペンジ リデン被素職式化合物

#### 2. 特許請求の範囲

(i) 下記の一般式(i) で表わされる 8.5 - ジイソ プロビルベンジリデン被索環式化合物及びせ の造度可能なものの場。

$$\begin{array}{c|c} 180 - P_T \\ \hline R^1 O - O - CH - Y \\ \hline 180 - P_T \\ \hline \end{array}$$

【式中、  $B^1$  は 水果またはペンジル基を扱わし、  $B^2$  は水果、 $COB^2$  (  $B^2$  は水果または  $C_1$  ~  $C_2$  のアルキル基を示す) で表わされるアジル基またはフェール基を表わし、 X は  $C_1$  ~  $C_2$  ~  $C_3$  )  $C_4$  (  $R^4$  は水果または S ) NB )  $R^4$  (  $R^4$  は水果または S ) NB ) で表わされる S または ② を表わし、 Y は  $C_1$  ~  $C_2$  のアルキル基を示す) で表わされる  $C_1$  ~  $C_2$  ②  $C_3$  ~  $C_4$  ~  $C_4$  ②  $C_5$  ②  $C_5$  ②  $C_5$  ②  $C_6$  ②  $C_7$  ③  $C_7$  ④  $C_7$  ④  $C_7$  ③  $C_7$  ④  $C_7$ 

- (2) B<sup>1</sup> が水常である特許請求の範囲第1項記 数の 3.5 - ジインプロビルペンジリデン被索 環式化合物 かよびその塩。
- (3) R<sup>1</sup> がペンジル基である特許資水の範囲第 1 項記載の 3.5 - ジイソブロビルペンジリデン検索環ズ化合物。
- (4) R<sup>3</sup> が水常である特許請求の範囲第1項記 板の8,5 - ジイソプロビルペンジリデン複葉 環式化合物をよびその適場可能なものの塩。
- (5) 成かCOR<sup>3</sup> (B<sup>3</sup> は水無またはC<sub>1</sub> ~ C<sub>3</sub> の アルキル基を示す)で表わされるアシル基で ある特許技术の範囲第1項配数の8.5 - ジイ ソプロビルベンジリデン複葉環式化合物をよ びその適性可能なものの地。

- (4) エポーロ日 (元 は水素を大は C<sub>1</sub> ~ C<sub>2</sub> のアルキル基を示す) で表わされる基である特許請求の範囲終 1 項記載の 8:5 ージイソデロビルベンジリデン被素類式化合物をよびその遺生可能なものの場。
- (7) エが C で表わされる基である特許需求 O 観囲第1項記載の8.5 ジイソプロビルベンジリデン被素環式化合物かよびその適塩可、能なものの地。
- C で表わされる基である特許額求・
  の範囲第 1 項記数の 3,5 ージインプロビルベ
  ンジリテン技策環ズ化合物をよびその過程可
  能なものの塩。
- C で表わされる基である特許請求 の親語第1項記数の 8.5 ージインプロピルペンジリデン被票職式化合物かよびその恐塩可能なものの性。
- GQ Xが 〇 で表わされる基である特許請求 の範囲第1項配数の 8,5 ージイソプロビルペンジリデン被業職式化合物をよびその適塩可

ルベンジリデン被索環式化合物をよびその連 塩可能なものの性。

- 66 Yが一NHCO一で表わされる基である特 件間水の範囲第1項記載の3.5 ージィンプロ ビルベンジリデン複素環式化合物およびその 適生可能なものの地。
- 切 Y が厳禁原子である特許請求の範囲第1項 記数の3.5 ー ジイソプロビルベンジリデン被 実際式化合物かよびその通塩可能なものの塩。
- (4) 予が保責原子である特許額束の範囲第1項 記載の3.5 - ジイソプロビルベンジリデン被 業理文化合物かよびその適権可能なものの地。
- CS = X Y が  $\frac{C = N 1}{R^4}$  または  $\frac{-N = C 1}{R^4}$  は水窓、 $C_1 \sim C_3$  のアルキル基、モルホリノ 基またはフェニル基を示す)で表わされる基 である特許調求の範囲第1項記載の3,5 9 イソプロビルベンジリデン複葉類式化合物シェびその適性可能なものの性。
- の X Yが または 30x で乗わされる基である時件請求の範囲第1項記載の

異なる00★.

- (3) Yが一CE2 一て表わされる基である特件書 水の範囲第1項記載の3.5 ージイソプロビル ペンジリデン複葉環式化合物かよびその適塩 可能なものの塩。
- は Yが一CEは80g ーで表わされる基である特許請求の範囲第1項記載の3.5 ージイソブロビルペンジリデン複葉環ズ化合物かよびその通信可能なものの場。
- 43 Yが T表わされる基である特許請求 の観囲第1項記載の8.5 - ジイソプロピルペ ンジリデン被策職式化合物かよびその適性可 能なものの場。
- 64 Yが~CONII-で表わされる基である時 許額末の報酬第1項記載の 8.5 - ジィソアル ビルベンジリデン複葉環文化合物 シェびその 通塩可載さものの塩。
- G Y  $\mathcal{F}$   $\overset{N}{\underset{B^{\pm}}{\cap}}$  (  $\mathbb{R}^{5}$   $\mathbb{R}^{5}$  )  $\mathcal{F}$   $\mathcal{F}$

8.5 - ジイソプロビルベンジリデン複葉環式 化合物をよびその遊場可能なものの塩。

# 8. 発明の評価な数明

(産業上の利用分野)

本発明は抗アレルギー作用及びテロシンキナー ゼロ管作用を有し、また多くの有機化合物の中間 体として有用なる。5 ージイソプロビルペンジリデン装置環式化合物並びにその避塩可能なものの塩 及びこれを有効成分とする抗アレルギー耐並びに テロシンキナーゼ阻害剤に関するものである。

#### (従来の弁督)

本発明による化合物は文献未記載の新規化合物であり、本発明者らにより初めて合成されたものである。

(発明が解決しようとする問題点)

本発明者らは、本発明による前配一段式(1)で表 わされる新規 8.5 - ジイソプロビルペンジリデン 被思想式化合物が多く有機化合物の中間体として 有用であり、かつそれ自体抗アレルギー作用並び にテロッシャナーゼ阻害作用を有することを見出 し本発明を完成した。

(問題点を解決するための手段及び作用効果) 本発明による新規化合物は下記の一般式(1)で表わされる。

$$\begin{array}{c|c}
 & \text{180-P}_{T} \\
 & \text{R}^{1} \text{ O} \\
 & \text{180-P}_{T}
\end{array}$$

$$\begin{array}{c}
 & \text{CH} \\
 & \text{N} \\
 & \text{R}^{2}
\end{array}$$
(1)

高を示す) で表わされる基. ○ 1 tt ○ <sup>60</sup>f を表わす。 }

本発明による一般文(1)で装わされる化合物のうち Ri が水果である化合物は、塩基と塩を形成することが可能であり、本発明による化合物の塩と とが可能であり、本発明の化合物と塩基から治塩で、例えば(1)金農塩、特にアルカリ金属、アルカリ土組金属、アルカリ土組金属、アルカリ土は、(3)アンモニウム塩、(3)アンモニウム塩、(3)アンモニウム塩、(3)アンテルアミン、ドリエテルアミン、ピロリンンニー、ピアン、モルホリン、ペキサメテレンに、アン、モルホリン、ペキサメテレンに、アン、モルホリン、ペキサメテレンに、アン、モルホリン、ペキサメテレンに、アン、アン、モルホリン、ペキサメテレンに、アン、モルホリン、ペキサメテレンに、アン、モルホリン、ペキサメテレンに、アンン・ビリジン等との塩がある。とれらの塩がたる場合には生産的に許容されるものを選ぶまである。

本発明化よる化合物の代表例を挙げれば表』のようになる。

化合物署号	RI	R2	x	Y	分子式	* 品形	# .#. (°c)
1	н	H	-CH2-	-CH2-	C <sub>17</sub> H <sub>28</sub> N O <sub>2</sub>	卷状	196~199
<u> </u>	-си₂;©	H	-CH2-	-CH2-	C24 H29 NO2	板状	172-175
1	н	н	-CH2-	-CONE-	C17 H22 N2 O2	板状	2 2 2 ~ 2 2 4
N	н	Н	- CH-	-conh-	C18 H24 N2 O3	針状	2 2 8 - 2 2 9
v	Ħ	сосн:	-CH2-	-соиц-	C19 H24 N2 O4	針状	183~185
И	н	н	-CII2-	-CB: 80:-	C17 H23 NO4 S	板 状	185~188
И	н	H	- C -	-СП2-	C <sub>17</sub> H <sub>21</sub> NO <sub>2</sub>	針状	252~255
VI.	н	Ħ	- C - 0	– N II –	C18 H20 N2 O2	調片状	258-262
K	н	Ħ	- C	-ипсо-	C17 H20 N2 O4	對状	290 (分解)
х	н	п	- C -	- 0 -	CIELLIS NO4	無定形	224~229
K	н	н	- C -	- s -	C16H19 NO2 8	射状	1 9 9.5 ~ 2 0 1.5

き 1 (観 き)

化合物费号	p.i	R2	x	Υ	<b>弁 → ま</b>	* 1 %	Ma4. (°C)
ХI	н	H	- C - 8	– н н –	CieHzoN2O2S	針状	2 2 1.5 ~ 2 2 4.5
χı	Н	H	- C -	- 8 -	C16 B19 N O2 S2	針杖	187~189
XDV	H	Ħ	- C - N H	- N - CH <sub>4</sub>	C17H28N8O2	針状	167~170
χv	Ħ	COCH	- C -	- N - CH <sub>3</sub>	C19 H25 N2 O3	針杖	186~190
XW.	-сн⁵- ⊚	В	- С - ИЯ	- N - CHs	C24 E28 Na O2	計杖	155~157
259	Ħ	п	- × - ©	- c - 0	C22 H24 N2 O3	板杖	266~268
2019	н	н	- င္ရ	= N -	C20 H27 N3 O3	板状	120 (分解)
ХIX	н	В	- &	= N -	C22 H24 N2 O2	無定形	185.5~188
χχ	п	0	- N :	CH:	C28 H26 N2 O2	板状	174-177
201	Н	R	<u></u>	<b>S</b>	Czi Hza NOz	模状	224-230
ZOI .	п	Ħ	7	302 -	C21 H23 NO4 S	板状	2 0 8.5 ~ 2 1 4

表 1 (概 2)

		7	*	Я	<b>8</b> f 1	( ·	<b>%</b> )	
化合物番号		С	H		N			
]	理論征	天装值	理論化	突胎征	母单位	英数值	理論包	夹肿值
ī	7 4.6 9	7 4.8 1	8.4 8	8.68	5.12	4.9 7	_	_
1	7 9.3 0	7 9. 2 0	8.04	8. 2 6	3.8 5	3.9 9	-	_
•	6 7. 5 2	6735	7. 3 4	7. 2 2	9, 2 6	9. 4 3	_	_
W	6 8.3 3	6821	7. 6 5	7. 6 8	8.88	9.04	-	_
v	6 6.2 6	6 6.4 3	7. 0 2	6.98	8.13	8.25	-	_
ч	6 0.5 1	6038	6. 8 7	6.99	4.15	4.20	9.50	9. 4
Y	7 1.0 6	7 0.8 7	7. 3 7	7. 5 4	4.87	4.91	_	_
м	6 6.6 5	6 6 8 1	6.99	6.86	9.71	9.9 0	-	_
K	6 4.5 4	6472	6. 8 7	6. 5 4	8.8 5	8.6 9	-	_
х	6 6.4 2	6 6.6 3	6. 6. 2	6.47	4.8 4	4.9 6	-	_
ж	6 2.9 8	6 2.8 5	6. 2 7	6.37	4.5 9	4.4 8	1 0.5 0	

		7	t *	Э	₩ī	er .	(%)	
化合物管号		С		3		N	1	8
	752	突装性	<b>非</b> 無無	夹験包	3 3 2	突動包	334	果納佐
XI	6 8.1 8	6 8.0 1	6. 6 2	6. 4 1	9. 2 0	9. 2 9	1 0.5 8	1 0.7 2
λī	5 9.7 8	5 9.9 0	5. 9 6	6.05	4.86	4.4 8	1 9.9 5	2 0.0 4
VIX	6 7.7 5	6 7.8 6	7. 6 9	7. 6 8	1 8.9 4	1 4.0 8	-	_
`xv	6 6.4 5	6 6.5 7	7. 8 4	7. 4 5	1 2.2 4	1210	_	
IVI.	7 3.6 3	7 8.4 4	7. 4. 7	7. 4 2	1 0.7 3	1 0.9 3	_	
XVI	7 2.5 1	7 2 4 6	6. 6 4	6. 5 2	7. 6 9	7. 8 1	_	
PCK	6 7. 2 0	6 7. 0 7	7. 6 1	7. 4 4	1 1.7 6	1 1.98	_	_
ж	7 5.8 4	7 5.9 9	6. 9 4	7. 0 5	8.04	7. 9 8	_	
æ	7 6.2 1	7 6. 2 6	7. 2 8	7. 2 0	7.7 8	7. 9 1	-	_
201	7 8.4 7	7 8.3 2	7. 2 1	7. 0 6	4. 3 t	4.5 8	-	_
XXI	6 5.4 3	6 5.5 4	6. 0 1	5.87	3.63	3.6 9	8.3 2	8.2 5

本発明の一段式(1)で要わされる化合物を合成する方法には、次の様なものが挙げられる、例えば、(1) 一般式(1)で要わされる化合物のうち、一般式(2)

$$\begin{array}{c|c}
180-P_{T} \\
R^{\dagger} O \longrightarrow O \longrightarrow N \\
180-P_{T} \\
0 \longrightarrow N
\end{array}$$
(2)

触違元だけすことにより Ri が水温である化合物 を得ることが出来る。更に取がCOR3(R3は前記 に用じ) で表わされるアシル基である化合物を得 るには上記の方法により得られた 17 が 水常であ る一般式(2)で表わされる化合物をID COOH(R3 は胸記に同じ) で表わされる有機療、 ( $R^{\sharp}$ CO) $_{2}$ O (  $R^{\sharp}$  は  $C_1 \sim C_2$  のアルヤル蓋を示す)で表わされ る有機管無水物はたはR<sup>®</sup>COZ (R<sup>®</sup>は前配に同じ、 2 はハロゲン原子を示す)で表わされる有機像ハ ライドを用いてN-アシル化することにより合収 される。  $R^1$  と  $R^7$  とが同時化水業である一般式(2) て表わされる化合物のN-アシル化反応を行なう 際に、フェニル基の4位水酸基をも同時にアシル 化された場合には、反応生成物を水酸化ナトリウ 4、水酸化カリウェ等の塩基を用いて加水分解し、 4 位アシル基を設定すればよい。

---,

(2) 一般式(1)で要わされる化合物のうち、一般式

$$\begin{array}{c|c}
 & 130 - P_T \\
\hline
 & 130 - P_T
\end{array}$$

$$\begin{array}{c|c}
 & CH \\
\hline
 & X^1 \\
\hline
 & X^2
\end{array}$$
(3)

(R<sup>L</sup> は前配に同じ) で表わされるペンメアルデヒ ドと、一般式(3)

(以 , X<sup>1</sup> , Y<sup>1</sup> シよび X<sup>1</sup> - Y<sup>1</sup> は前配に同じ) で表わされる化合物とを無触棋下に、あるいは趣 または塩基を触媒として融合することにより合成 することが出来る。

触媒として用いる酸としては酢酸、プロピオン

リウム、水酸化カリウム等の塩基を用いて加水分解し、脱アジル化すればよい。

(3) 一般式(1)で扱わされる化合物のうち、下記一 般式

(RI および R2 は前記に同じ)

で表わされる化合物は E.Hedeya らの方在 [ テトラヘドロン (Tetrahedron ) , <u>2 4</u> , 2 2 4 ] (1968) ] K はつて合成した一般式

(R<sup>®</sup> は 水果またはフェニル基を表わす) で表わされる化合物と開送の一般式(4)で表わされ るペンズアルデヒドとを反応させて、一般式

酸等の有種酸、微酸、ペンゼンスルホン酸、 p ー トルエンスルホン酸等のブロトン酸、三フツ化ホ り票等のルイス酸を挙げることが出来る。 触媒と して用いることが出来る塩基としては、モノエタ ノールアミン、ピペリジン、ピロリジン、モルホ リン、ピリジン、1.8 ~ ジアザビシクロ(5.4) 0 ] ウンデクーブーエン(以下、DBDと時記す る)等の有機塩基;酢酸ナトリウム、酢酸カリウ ム等の有機酸アルカリ金属塩;水酸化ナトリウム、 水像化カリウム等のアルカリ会園水酸化物;リテ ウムジイソプロピルアミド等のアルカリ金属アミ ド;ナトリウムメナラート、ナトリウムエテラー ト等のアルカリ金属アルコラード;水常化ナトリ ウム、水素化カリウム等のアルカリ金属水素化物 が挙げられる。反応務謀としてはメタノール、エ タノール等のアルコール概;ナトラヒドロフラン、 ジオキサン等のエーテル集;酢酸等の有機酸療; 無水酢酸等の有機酸無水物養等が帯げられる。有 機能無水物を用い、フェニル基の4位水酸基がア シル化された場合には、反応生成物を水酸化ナト

(形 シェび 別 は初記に同じ)

て要わされる化合物を得、必要に応じて R® が水 常である化合物を R® COOH ( R® は顔配に同じ) で要わされる有機酸、( R® CO) ± O ( R® は簡配に 同じ) で要わされる有機酸無水物または R® CO 2 ( R® かよび 2 は胸配に同じ)で要わされる有機酸 ハライドを用いてN-アンル化するととにより合 成される。N-アンル化反応を行なう際に同時に フェニル基の4位水酸基をも同時にアンル化され た場合には、反応主成物を水酸化ナトリウム、水 酸化カリウム等の塩基を用いて加水分解し、4位 アンル基を脱離すればよい。

(4) 一般式(1)で扱わされる化合物のうち、下配一 数式

17 MM -- 20010 (7)

( ) からな 対 は前記に同じ) で表わされる化合物は、エルレンマイヤーのアメ ラクトン合成法に従つて合成した一般式

(Ri は胸紀に同じ)で表わされる化合物に Ri®NH2 (Ri®は水葉またはフェニル基を表わす)を B.B.Pandy らの方法〔ファーマコロジー (Pharmacology), 16,344 (1978)〕 に従つて反応させることによつて合成することが 出来る。また、一般式

(R<sup>2</sup> かよび R<sup>4</sup> は前配に同じ、 R<sup>13</sup> は水気または アルキル基を表わす) で表わされる化合物とをト リエテルアミン、 D B U等の有機塩基;ナトリウ ムメナラート、カリウムエテラート、カリウムタ ーンギリーブチラート等のアルカリ金属アルコラ ート:水気化ナトリウム、水気化カリウム等のア ルカリ金属水気化物存在下に反応させ、一般文

【R<sup>2</sup> および R<sup>4</sup> は対配に同じ、R<sup>14</sup> は水常、ベンジル基されはターシャリープテルジメテルシリル 基を扱わす〕で扱わされる化合物を得、 R<sup>14</sup> がターンャリープテルジメテルシリル基である場合に はフン化テトラー n ー ブテルアンモニウム等を用いて配離し、更化必要化応じて R<sup>2</sup> の アシル基を水像化ナトリウム、水酸化カリウム等のアルカリ 全国水酸化物またはヒドラジン、 D B U等の有機 生盃を用いて加水分解除去することにより合成す

化合物を得るだは合成性(I),(I),(I)で述べたアシ ル化性を用いればよい。

(5) 一紋式(1)で変わされる化会物のうち、一般式

(B<sup>1</sup>, B<sup>2</sup> シよび R<sup>4</sup> は初記に同じ) で扱わされる化合物は次の製水方法により合成される。
(a) C. Gallina らの方法 (テトラヘドロン・レチーズ (Tetrahedron Letters), 1 1 8 5 (1973) ] に従つて、一般式(8)

(R<sup>IZ</sup> はペンジル基またはタージャリープテルジ メテルンリル基を表わす)で表わされるペンズア ルデヒドと一般式 COR<sup>IZ</sup>

ることが出来る。

(b) C.Shin らの方法[プレテイン・オブ・ケミカル・ソサイアティー・オブ・ジャパン (Bull. Chem. Soc. Japan ) . 4 6 , 3 8 7 6 (1973)) 化従い、一般式

130-Pr
$$R^{180} \longrightarrow CH = C \longrightarrow NHCOCH_2 Z^1$$
150-Pr
$$COOR^{18}$$

(B16 はペンジル高またはメーツヤープテルジメナルシリル高を表わし、R16 は低級アルキル基を表わし、Zi はハロゲン原子を表わす)で表わされる化合物をR17 NEz (B17 は水電またはフェニル基を表わす)で表わされる化合物と反応させ、一般な

(RIS はベンジル基またはチーシャリープテル ジ メテルシリル英を表わし、RIT は水素またはフェ エル基を表わす)で表わされる化合物を得、配<sup>18</sup>がメーシャリープナルジメナルシリル基である場合にはフツ化テトラー n ープチルアンモニウム等を用いて設理除去することにより合成出来る。また、R<sup>17</sup>が水業である化合物はメーシャリープテルジメナルシリル基を設定する前に B<sup>8</sup>COOE(R<sup>8</sup>は前配に同じ)で表わされる有機酸無水物またはR<sup>8</sup>COZ(R<sup>8</sup> およびZは前配に同じ)で表わされる有機酸無水物またはR<sup>8</sup>COZ(R<sup>8</sup> およびZは前配に同じ)で表わされる有機酸無水物またはR<sup>8</sup>COZ(R<sup>8</sup> およびZは前配に同じ)で表わされる有機酸ハライドを用いてN ー Tシル化表、

(c) B.W.Dominy 5の方法(ジャーナル・オブ・ オルガニンタ・ケミストリー (J.Org.Chem.), 34,2018(1969)]に使い、下記一般 ま

メーシャリープテルジメテルシリル裏を設備すると

とにより、 B<sup>2</sup> が COR<sup>3</sup> (R<sup>3</sup> は前記に向じ)である

化合物へ誘導することが出来る。

$$R^{18}O \longrightarrow CH = C \xrightarrow{NHCOCH_8} CONHCH_2COOR^{19}$$

(N) かよび 財 は前配に同じ) で表わされる化合物は、合成法(2) 代述べた方法により得られる一般式

(R! シェび B! は前記に同じ) で表わされる化合物とモルホリンとを反応させることにより得るととが出来る。

本発明による前記一般支(i)で表わされる 8.5 ー ジイソプロピルペンジリデン被無理文化合物及び その点性可能なものの塩は抗アレルギー耐度びに チロンンキナーゼ阻害耐として有効である。

ボブレルギー作用はモルモント動切片を用いる SRSーA (Slow reacting substance of (風18 はペンジル基またはターシャリープテルジメチルシリル基を表わし、R18 は低級アルキル基を表わけ)で表わされる化合物を(R20 CO)±O(及28 は低級アルキル基を表わす)で表わされる有機酸無水物存在下に反応させるととにより、一般式

(All は背配に同じ)で表わされる化合物を得、 BII がターシャリープテルジメテルシリル基である場合にはフッ化テトラーロープテルアンモニウム等を用いて観難し、更にピペラジン環内のN-アンル基はアニリン、ヒドラジン等の有機塩基または水銀化ナトリウム、水酸化カリウム等の無機性基を用いて観測すればよい。

(6) 下記の一般式

anaphylaxis) 生合成または遊離抑制試験ある いは受動的皮膚アナフィラキシー(PCA)反応 抑制試験により明らかにした。

ハートレイ系操性モルモント(体置 3 5 0 ~ 4 5 0 f) の臀筋肉及び腹腔内に和白アルブミン 唇痕(1 0 0 甲/㎡)各 1 ㎡を1 回圧射して感作し、住針 4 週間後に放血数死せしめ、直ちに右心 富より冷まイロイド液を住入して肺を施液し、血液を除いた。肺を2 m² 以下の細片とし、5 0 0 甲ずつをまイロイド液 4.8 4 ㎡の入つた各試験管に入れた。これにジメテルスルホキンド(DMSO)に彫解した被検化合物 0.0 1 ㎡を加え、3 7 ℃で 1 0 分間インキュベート後、更に卵白アルブミン 湯液(1 0 甲/㎡) 0.1 5 ㎡を加え、3 7 ℃で

2.0 分間インキニペートした。対像にはDM80 を加えて同様化反応させた。インキュペート後、 反応液をガーゼで炉通し、炉液中の888-▲を 定量した。

SB8-Aの定量は、モルモツト四島を用いた マグスス族により行なつた。即ち、メイロイド液 (81℃、空気造気)を装した10回のマグスス 曾にモルモツト朔出製鍋(長さ:2~8回)を懸 難し、ヒスタミン (0.1 # 1/㎡) による収斂反 応が一定となつた後、1 # 単プトロピン及び 1#単 ビリラミン存在下で上記の反応更被中の8R8-A を研定した。抑制率(%)は対照による収縮高 を100として水めた。

表 2 K代表的化合物の8 3.8 - A 生合成・遊離 抑制作用を示す。との結果から、本発明による一 股式(1)で表わされる化合物は8 B.8 - A.生合成・ 遊離を強く抑制することが分る。なか化合物番号 は表1の化合物番号に対応したものである。

# (E) ラット同種受動皮膚アナフィラキシー(PCA) に対する抑制作用

抗血病の作割は I.Mota の方法〔イムノロジイ (Immunology) . 1, 681 (1964) ). PCA反応は丸山らの方佐〔日本襲電学会誌、 74,179 (1978) ) 化単樹して行なつた。 抗血層の作動

和白アルブミン御液(2甲/៩)をウィスター 系雄性ラット(体重200~260g)の同大艦 阿時に百日ゼミワクテン (Bordetella

Pertussis, 2×1 010 億/㎡, 千雲県血清研究 所)を1世/ラット腹腔内投与した。配作12日 '後、エーテル厳勝下で後大齢展より禁血し、血清 を分離して一80℃で保存した。

# P C A KE

ウイスター系線性ラント(体重180~210 !)を1押4匹として用いた。背部を練毛し、生 程度塩水で82倍に特款した抗血病を背部反内の 4 ヶ所に 0.0 5 ㎡づつ住射した。 4 8 時間後、生

妻 2

化合物	雅 茂 (#麗)	與制率(%)
1,	100	6 8
W	100	9 8
v	100	3 9
W	100	6 0
VE	100	100
x	100	8 5
х	100	8 6
Ж	100	9 0
XX	100	8 6
אבע	100	5 3
χv	100	7 0
XVI	100	5 1
XX	100	2 0
ZDE	100	2 8
XXII	100	8 8

着食塩水に得際した卵白アルプミン (2 甲/ ㎡) とエパンスブルー(10甲/៧)との等量度液を 1 ピラント尾静脈内注射し、80分後エーテル版 静下で放血致死させ、背部をはく難した。 色素器 出した背祭円の顕微を創定し、対無罪と比較して 抑制率(%)を求めた。

被検化合物は 0.2% ツイーン80を含む 2.5% アラビアゴム水帯液に懸備したものを 0.5 紀/ 100 / 体室の割合で抗原住計1時間指化経口投 部に 0.5 叫/1009体重の割合で筋肉内住針し、 与した。なお、対原薬のトラニラストは抗原住針 3 0 分割に延口投与した。 表 8 に代表的化合物の PCA反応に対する抑制作用を示す。この結果が ら、本発明による化合物はPCA反応を強く抑制 することが分る。

ስ <del>ተ</del>	校与盘(可/树)	抑制率(%)
1	100	2 6
XII	100	2 1
W.	100	2 1
トラニラスト	3 0 0	4 0
(公知化合物)		

----

テロシンキナーゼは発露機構に関与していると とが知られており、テロシンキナーゼ服害機は制 倍利あるいは発感的止剤として有用である可能性 を示唆している。

本発明の化合物によるテロシンキナーゼ阻害作用は、8.Cohen らのテロシンキナーゼ活性測定法(ザ・ジャーナル・オブ・パイオロジカル・ケミストリー (J.Biol.Chem.) , 267,1528 (1982) )を参考として開定した。

とト語細胞の来簡立様 A - 4 3 1 を牛胎児血精 1 0 %、ストレプトマイシン (5 0 μ f / ㎡)、ベニシリン (5 0 μ f / ㎡) 及びカナマイシン (5 0 μ f / ㎡) を含有する f ルベンコ 変法 イーグル増地 (日本製工機)中、8 7 ℃ 5 % CO2 条件下で培養した。得られた細胞を上記のコーエンらの方法に単じて処理し、上皮細胞増超 子受客 4 ーチョシンキナーゼ複合体を含有する 膜 標品 (以下、膜標品と略配する) を得た。との膜 標品を可適化することな (以下の節定に用いた。

N-2-ハイドロキシエチルピペラジン-N―

り求めた。

图要率(%) = 
$$\frac{(C-D) - (A-B)}{C-D} \times 100$$

表4 K代表的化合物のテロジンキナーゼ図書作用を示す。 この離長から、本発明による化合物は ナロジンキナーゼを強く図書することが分る。

表 4

化合物	数 度(μμ)	監督事(%)
И	100	100
K	100	9 4
æ	100	100
ZOI	100	1 0 0
<i>X</i> VI	100	9 3
W.	100	100
,XX	100	9 1
<i>3</i> 08	100	100

# 多性思性

ICB系競性マウス(体重23~261)を用

2 - エチンスルホン酸糖樹液(20 m M 、 p 丘 7. ()、MuClg(1 m M)、牛血黄アルプミン (7.5 × チ)、要者品(登日として10 × チ) にDM80に都算した試料を加え、0℃、5分間 インキュペーション後、上皮細胞増殖因子(以下、 E G F と略記する)(100nf) を加え、0℃、 15分間インキュペーションした。次いで、[ァー 32 p ] A T P (\$ 0 0 0 Ci/m mol, 0.1 # Ci) を表加し、最終70μ8とし、更に0℃、15分配 インキュペーション装反応被50gまをワットマ・ ン8MMろ紙に扱み込ませた後、底ちに10%ト リクロロ酢酸-10mMピロリン酸ナトリウム水器 限で反応を停止した。ろ紙を開放で十分に洗浄し、 次いでエタノールで疣骨後、乾燥し、液体シンテ レーション・カウンメーを用いてる紙に残存する 放射能を創定し、この値をAとした。同時に対照 として、EGFを添加したい反応、試料を添加し ない反応、及びEGIと試料とを彫加しない反応 を行い、同様の測定を行ない、各B、C及びDと した。テロシンキナーゼ阻害事は、下配の式によ

い、1票6匹とした。化合物(I)~ (XMI) を 0.2% フィーン8 0 を含む 2.5% アラビアゴム水溶液化 腫瘍したものを 0.1 メ/1 0 1 体重の割合で経口 投与した。投与後 2 週間にわたり、一収症状を観察して、死亡例/供飲例数を求め、5 0 %致死患 L Dso (マ/47) を推定した。その結果、本発明の化合物(I)~ (XMI) は1 0 0 0 年/44 投与でも死亡例が観察されず、化合物(I)~ (XMI) の L Dso は 1 0 0 0 年/44以上であると推定され、位別性であることが分つた。

#### 調剤シェび投与量

本発明化よる状プレルギー剤またはテロシンキナーゼ阻害剤の製剤としては、経口、経験または非経口的投与化よる製剤のいずれをも選ぶことができる。具体的製剤としては便利、カブモル剤、細粒剤、シロップ剤、坐糞、軟骨剤、住針剤等を挙げる事ができる。本発明化よる状プレルギー剤またはテロシンキナーゼ阻害剤の製剤の担体としては、経口、経験、その他非経口的化投与するために達した有機または無器の関係または液体の、

通常は不活性な無学的無体材料が用いられる。具体的には、例えば結晶性セルロース、セラテン、乳糖、最初、ステアリン酸マグネシウム、タルタ、理物性かよび動物性脈切かよび前、ガム、ポリアルキレングリコールがある。製剤中のシンキナーゼを表現の割合は0.2~100%の間で変化させぞったとができる。また、本発明による抗アレルギースまたはテロシンキナーゼ阻害がたけ、テロシンキナーゼ配害がある。この場合は、エ発明の放アレルギー類、テロシンキナーゼ配害がある。この場合、本発明の放アレルギー対象によったはテロシンキナーゼを利用での他の医療を含むことができる。この場合、本発明の抗アレルギー対象によっている。

本発明による抗アレルギー無またはテロシンキナーゼ阻害剤は、一般に所能の作用が調作用を伴うことなく達成される故与量で投与される。その具体的な個は医師の判断で決定されるべきであるが、一般に成人1日当り10年~10月、肝ましくは20年~5月程度で投与されるのが普通であ

## 美羅例 2 化合物 1 の合成

実施例1で得た化合物1をエタール60㎡に勘 開し、5%Pd-C 940号を加え、重量常圧下 で4時間水梁を通気した。触縦を炉別後、炉板を 無難乾因し、酢酸エテルより品折し、化合物1を 1.909時た。

# 実施例3 化合物 V の合成

ろう。なか、本義明の抗アレルギー開またはテロ シンキナーゼ胆審期は有効成分として19~5 f、 行ましくは89~1 f の単位の豪学的製剤として 投与することができる。

#### (美麗秀)

次化本発明化合物の製造例を挙げて本発明を具体的に説明するが、これらの実施例は本発明を制設するものではない。

#### 英葉例1 化合物 1 の合成

水素化ナトリウム8009を乾燥ペンセン70 出化肥何し、留業家庭気下、N-アセテルピロリ ドン8.179と4ーペンジルオキシー8.5 ージイ ソプロピルペンズアルデヒド7.4 09を乾燥ペン セン70 当に居所した悪液を室蓋には痛下した。 5 0 ℃に加熱し、一夜微算した。冷却後、メチノ ールを加え過剰量の水素化ナトリウムを分解し、 水50 当を加え、6N袋酸で酸性とした。タロロ ホルムーエチノール度合物係で抽出し、抽出板の 居以を寄去した後、限度を酢酸エテルより品折し、 化合物目を8.8 89将た。

# 実施例4 化合物目の合成

実施例 8 で得た化合物 7 3 4 4 号を D M F 2 点 化器解し、抱水 ヒドラジン 1 2 5 号の D M F 器版 (1 点) を水器上で加え、重温化界晶し、1 時間 復祥した。反応器版化、徐々に水を加え、生成し た結晶を俨別、水洗し、酢酸エテルーへキサンの 混合器版より晶析し、化合物 F を 2 1 5 号降た。

# 実施例 5 化合物 № の合成

水気化ナトリウム400号を乾燥ナトラヒドロフラン(THF)10㎡に懸角し、窒素容熱気下、 亜温には4-デーシャリーブテルジメテルシロキシー3.5-ジインプロビルベンズアルデヒド640 号と1.8-ジアセテルー4-プテルー2.5-ピペラジオン424号の丁丑F層後10㎡を加え、設備で1.5時間後昇した。メタノールを加え過剰量の水気化ナトリウムを分解した後、タロロホルムで抽出した。独出版の路線を観光した後、タロロホルムで抽出した。独出版の路線を観光した後、残産を厚層クロマトグラフィにより初関し、5-(4-デーンマリーブテルジメテルシロキシー3.5-ジィン プロビルベングリデン) - ミーメテルー 2.5 - ビベラジオンを得た。これを丁旦ま10 mに得解し、フッ化テトラーロープテルアンキニウムの1 M
THF指板2 mを加え15分配投丼した。6 N 破骸で中和装、水洗し、クロロホルム層を最難、乾闘し、残液を即骸エテルより晶折し、化合物計を288両続た。

#### 実施例 6 化合物 4 の合政

H.lehr らの方法 (ジャーナル・オブ・オルガニック・ケミストリー (J.Org.Chem.), 6, 136 (1963) ] 代従つて合成した8ーテオモルポリノンー1,1ージオキンド447 可と3,5ージイソプロビルー4ーヒドロキンベンズアルデヒド618 可をベンゼンに懸層し、ピペリジン0.045 ピ、野酸0.135 ピを加え、ディーン・ステーク装置を用い生成する水を除去しながら8時間加熱量流した。冷却被、不勝物を評別し、严极化水を加えた後、クロロホルムで抽出した。抽出後の邪蹊を質去し、強道をシリカゲルを担体とするカラムクロマトグラフィーにかけ、クロロホ

ラムクロマトグラフィーにかけ、クロロホルムーエチノール(6:1, V / V) の混合療理で輸出した。目的物を含む面分の薄媒を留金し、残混を酢酸エテルーへキサンの混合機構より品折し、化合物14を4.91 1 5 4 た。

### 実施例9 化合物ドの合成

3.5 - ジィソプロピル~4 - ヒドロキシペンメ アルデヒド4.1 2 f とパルピンール酸 2.5 6 f を エタノールに懸蔑し、ピペリジン 0.2 ml と酢酸 0.6 mlを加え、ディーン・スターク装置を用い生 取する水を除去しながら4.5 時間加熱重度した。 冷却後、反応療度に水を加え、クロロホルムで抽 出した。抽出版の薄膜を留去し、機道をメタノー ルーエタノール復合標準より品折し、化合物ドを 1.2 f 構た。

# 英基例10 化合物 X の合成

V.H.Wallingford らの方法(ジャーナル・オブ・アメリカン・ケミカル・ソサイアティー( ].
Amer. Chem. Soc. ) , <u>67</u> , 5 2 2(1945) ] Kはつて合成した 2.4 - オキサゾリジノン 2.0 2 ルムニエタノール(9:1, V/V) 混合溶解で 窓出し、目的物を含む面分を装置収置し、化合物 すな450 m体化。

#### 実施例7 化合物 14 の合政

3.5 - ジイソプロビルー4 - ヒドロキシベンズ アルデヒド 5.1 5 f とトリフエユルホスホラニリ デンスタシニイミド 1 0.7 8 f をジメテルスルホ キンド 5 0 ml K 簡解し、80 O K 加熱し、5 時間 徴拌した。冷却後、反応度合物を水 4 0 0 ml K 住 ぎ入れ、クロロホルムで抽出した。抽出版の部級 を留去し、機能をエタノールより品折し、化合物 間を 3.4 0 f 得た。

# 実施例8 化合物項の合成

8.5 - ジイソプロビルベンズアルデヒド 6.1 8 f とヒダントイン 4.5 0 f をエタノール一水 (4:1, \*/\*) の混合器等 5 0 mt 膨緩し、エタノールでくン 8.5 6 mt を加え、1 2 時間加熱温度した。冷却装、反応標準を留去し、残渣を即載エテルに磨無し、水洗した。酢酸エテル層の酢酸エテルを留去し、残渣をシリカゲルを担体とするカ

まと3.5 - ジイソプロビルー4 - ヒドロキシベンメアルデヒド4.1 2 まを酢酸40 = 北代密原し、酢酸ナトリウム8.8 2 まを加え、100℃に加熱し、12時間投昇した。冷却被、反応唇板に水を加え、クロロホルムで抽出した。油出板の器はを留去し、残虚をシリカゲルを担体とするカラムクロマトグラフィーにかけ、酢酸エテルーへキサン(3:5. v / v) の混合器頃にて提出し、目的物を含む面分を震離範囲し、化合物メを200時た。

## 美華們 1.1 化合物 3.0 合成

3.5 - ジイソプロビルー4 - ヒドロキンベンズ アルデヒド1 0.3 f と 2.4 - チアンリジンジオン 5.9 3 f を助数1 0 0 al 代語解し、作数ナトリウム 8.3 f を加え、6時間加熱遺液した。所刻後、 搭紙を留去し、機変をクロロホルム - エタノール 混合器既に無解し、水洗した。搭紙を留去し、機 復をベンゼンより品新し、化合物別を1 1 f 様た。

# 実施例12 化合物准の合成

3,5 + ジインプロビルー 4 - ヒドロキシベンズ アルデヒド 6.1 9 f とテオヒダントイン 8.4 9 f を添載60mに前押し、約数ナトリウム4.98月 を加え、16時間加熱重捷した。冷却後、得無を 智士し、残速をクロロホルムに無押し、水洗後、 機勝範囲し、残速をクリカゲルを担体とするカラ ムクロマトグラフィーにかけ、クロロホルムで搭 出した。目的物を含む面分を機断範囲し、ペンゼ ンより具折し、化合物用を4.97月得た。

#### 英葉例13 化合物/理の合成

3.5 - ジイソプロピルー 4 - ヒドロキシベンズ アルデヒド 4.1 2 f とローダエン 2.6 7 f を勤酸 4 0 al に勝勝し、酢酸ナトリウム 3.8 2 f を加え、 4 時間加熱産後した。冷却被、排練を留金し、機 液をクロロホルムに溶解し、水洗被、繊維配配し、 トルエンより品折し、化合物 20 を 5 f 得た。

#### 失差例14 化合物 AV の合成

3.5 ジイソプロビルー4 ーヒドロキシベンズアルデヒド 8.0 9 f とクレアテニン 1.7 0 f を無水砂酸 5 0 m に 形像し、砂酸ナトリウム 2.5 6 f を加え、9 0 ℃に加熱し、一夜復拝した。冷却後、海球を留去し、残渣をクロロホルムに無解し、水

半着液を室盘で加え、1時間表押した。反応集合 根に水を加え、新出した細晶を伊別、水洗し、白 色部品540号を得た。得られた細晶をメタノー ル20点に軽層させ、20%水酸化ナトリウム水 溶液0.4点を加え、室温にて4時間程押した。3N 塩酸にて中和装、水を加え、新出した細晶を伊別 し、水洗砂、乾燥した。はられた細晶を即産エテ ルエステルーへキサン度合用はより鼻折し、化合 物 XV を230号様た。

# 東路例16 化合物 700 合成

洗後、濃縮、乾固し、シリカゲルを担体とするカクエクロマトグラフィーにかけ、酢酸エテルーへキサン(2:1、V/V)の混合確核で得出、最適し、5-(4-アセトキシー3.5-イソプロピルペンジリデン)-8-アセテル-2-イミメンー1-メテル-4-イミダンリノン770号を得た。
とれをエタノール80世代動機させ、20%水酸化ナトリウム想度0.8世を加え、塩温にて一つで化サール。3N塩酸により酸性とした後、クロホルムにで抽出し、抽出液を緩緩、シリカゲルを担体とするカラムクロマトグラフィーにかけ、酢酸エテルーへキサン(8:5・V/V)の混合器はにより居出し、目的とする化合物で含む面分を機能に、ベンゼンより品折し、化合物 XV を153号降た。

#### 実施例 1.5 化合物 201 の合成

5 - (4 - アセトキシー3.5 - インプロピルベンジリデン) - 8 - アセチルー2 - イミノー1 - メナルー4 - イミダンリノンで64 甲をDMF9㎡に磨解し、極水ヒドラジン250 甲のDMF1

クロロホルムーエタノール(6:1、 $\forall$ / $\forall$ ) 促合器群で用出し、目的物を含む面分を最終範囲し、化合物 XII を8.7.0 写得允。

#### 実施例17 化合物 X物の合成

A.Michaellis 5の方法(ベリヒテ・デアー・ドイテエン・セミッシェン・グゼルシャフト
(Ber.deut.Chem.Ges.)、25、1502
(1892) ] に従い合成したノーフェニルー
8.5ーピラブリジノン1.28まと8.5ージイソプロビルー4ーヒドロキンベンズアルデヒド1.44まをエタノール20㎡に磨除し、ビベリジン6橋を加え、4時間加熱産産した。冷却装、反応循液を囲撃し、生成した結晶を炉別、洗浄した。エタノールより品折すると化合物 24 が1.5 ま得られた。

# 実施例 1.8 化合物 20年の合成

実施例 1 2 で得た化合物 XI 1.9 3 3 をエタノール 5 0 回代機解し、モルボリン 1.0 4 3 を加え、 5時間加熱産使した。特知後、生成した結晶を抑 別し、エタノールより品折し、化合物 XII を 1.9 3 様た。

#### 共発例19 化合物 AX の合成

αーペングイルアミノー 3.5 - ジイソプロビルー 4 - ヒドロキシケイ皮酸アミド 9 1 6 可を即数 1 0 叫化溶解し、酢酸アトリウム 4 0 可を加え、 1 0 0 ℃に加熱し、一皮投料した。冷蝉铁、溶成を留去し、残蔵をクロロホルム化指解し、水洗装、機能し、薄厚クロマトグラフィーにより精製し、化合物 25 € 6 0 可得た。

## 実施例20 化合物なの合成

3,5 - ジイソプロビルー4 - ヒドロキシフエニルベンズアルデヒド 3.0 9 f と 3 - メテル・1 - フエニル・5 - ビラゾロン 2.8 5 f を酢酸 1 5 0 以代層解し、酢酸ナトリウム 1 5 時、無水酢酸 1 5 病を加え、2 時間加熱産後した。冷解後、循係を智去し、残産をクロロホルムに溶解し、水洗後、クロロホルムを智去し、残液をシリカゲルを出体とするカラムタロマトグラフィーにかけ、クロロホルムで溶出し、目的化合物を含む面分を接端範囲した後、ベンゼンより晶折し、化合物 次 午 4 5 0 可得た。

ムクロマトグラフィーにかけ、酢酸エチルーへキサン (3:5, V / ▼) の混合痔瘍により療出し、目が物を含む面分を最適乾壓し、化合物 201 を4 2 0 号称た。

特 許 出 顧 人 館商化学工業株式会社 代職人 - 弁卿士 - 进 - 野 - 宮 - 一

### 共進例21 化合物 201 の合成

3.5 - ジイソプロピルー4 - ヒドロキシベンズ アルデヒド 3.0 9 f と 2 - オキシインドール 2.0 6 f をベンゼンに溶解し、ピベリジン 0.2 m と酢酸 0.6 mを加え、デイーン・スターク装置を用い、 生成する水を除去しながら 2 時間加熱量便した。 冷却数、搭載を除去し、後渡を酢酸エテルエステ ルより品折し、化合物 20 3.4 0 f を得た。

# 英雄舞 2 2 化合物 2回の合成

出.Lehr らの方柱〔ジャーナル・オブ・オルガニック・ケミストリー(J.Org.Chem.) 、6 、1 3 6 (1 9 6 8)〕 K 夜 つて合成したペンソー 3 ーナオモルホリノンー 1,1 ージオキンド 5 9 1 やと 8,5 ージイソブロビルー 4 ーヒドロキシベンズアルデヒド 6 1 8 号をベンゼン 3 0 以代動所し、ビベリジン 0.0 4 5 叫と酢酸 0.1 3 5 叫を加え、ディーン・スターク経費を用いて、生成する水を輸去しながら 4.5 時間加熱量度した。冷却被、 密路を費素し、規度をクロロホルム に都解し、 水洗機、 最難し、 残度をリカゲルを担体とするカラ

# 第1項の銃き

@int,Cl.1	識別記号	庁内整理番号
C 07 D 209/34 231/20 233/70 233/96 241/18 263/40 277/34 277/36 277/54 279/06 279/12		7306-4C 7166-4C 7133-4C 7133-4C 7166-4C 7130-4C 7330-4C 7330-4C 7330-4C 7330-4C

# 手 装 補 正 書 (MP)

医取引电子 月13日

1. 事件の表示

1

■ n 60 \* \*\* !† ■ #167999 \*

- 2. 死明の名称 ステージイフア・ロビュベンドリアン技士は代化を行
- 3. 福正をする者

事件との異体

特异形霉人

大阪市北区中之岛三丁目2番4号

化异常 新納茲人

4. 代 量 人

を 所 大型市団医学可能1丁B13日2号 音楽ビル3号 (国際のH441H177)

E & (8632) 弁理士技劳真一卷

कुरम

- 5. 補正命令の日付
- 6. 補正により増加する発明の数
- 7. 相压力 对意 则但多。各种一种但可证明。施 会员,1.10 61.1.10 8. 相压力等 明细春上初从。通门路上下。

ガズ (V)

## (別紙)

- (1) 明細書18頁下から5行員 「水震ナトリウム、水酸化カリウム」を「水素 化ナトリウム、水素化カリウム」に訂正する。
- (2) 間16頁下から8行目 「金属アルコラード」を「金属アルコラート」 に訂正する。
- (3) 周24頁7~9行の一般式

(e) 局 2 5 頁 1 ~ 4 行の一般式

打正する.

`\_\_\_\_

۲. ۲

- (6) 同25頁下から6行目 「2m²」を「2m」に訂正する。
- (4) 関 8 5 頁 6 行日 「本発明抗アレルギー剤」を「本発明による抗 アレルギー剤」に訂正する。
- (7) 雨 8 6 頁 1 0 行員 「 3 0 0 9 」を「 8.00 9 」に訂正する。
- (8) 関 3 8 頁 1 1 行目 「重産には」を「重要で」に訂正する。

「ノーフェニルー」を「1ーフェニルー」に訂 正する。

- 87 月 4 7 頁 4 行目 「アトリウム」を「ナトリウム」に打正する。
- 44 周47頁10~11行 「ヒドロキシフエニル」を「ヒドロキシ」に打 正する。

4 8 頁 5 行目及び同頁下から 4 行目の各「ディ ーン・」を「ディーンー」に訂正する。

「クロマトグラフィ」を「クロマトグラフィー」

関89頁下から6行旦;41買10行目;

(i) 同41頁下から2行目「Amer.」を「Amer.。を「Amer.」を「Amer.。を「Amer.」を「Amer.。を「Amer.」を「Amer.。を「Amer.」を「Amer.。を「Amer.」を「Amer.。を「Amer

(8) 同 8 8 頁下から 2 行目

- 82 周43頁下から5行目 「 3.5ジインプロピル」を「 3.5 ージインプロ ピル」に訂正する。
- ## 周44頁4行目及び両頁下から4行目の各 「インプロピ」を「ジィンプロピ」に訂正する。
- 64 四44頁下から2行目 「イミダソリノン」を「イミダゾリノン」に訂正する。
- 88 日 4 5 頁 7 ~ 8 行 「酢酸エテルエステル」を「酢酸エテル」に釘 正する。
- 88 四46頁8行品

缸上

14/5/1 DIALOG(R) File 351: Derwent WPI (c) 2001 Derwent Info Ltd. All rts. reserv. 007076382 WPI Acc No: 1987-076379/198711 XRAM Acc No: C87-031943 New 3,5-diisopropyl-benzylidene heterocyclic cpds. - with antiallergic and tyrosine kinase-inhibiting action Patent Assignee: KANEGAFUCHI CHEM KK (KANF ) Number of Countries: 001 Number of Patents: 002 Patent Family: Patent No Kind Date Applicat No Date A 19870207 JP 85167999 19850729 198711 B JP 62029570 A B 19931018 JP 85167999 19850729 199344 JP 93074587 Priority Applications (No Type Date): JP 85167999 A 19850729 Patent Details: Patent No Kind Lan Pg Main IPC Filing Notes JP 62029570 A 16 17 C07D-207/444 Based on patent JP 62029570 JP 93074587 E Abstract (Basic): JP 62029570 A 3,5-Dilsopropyl benzylidene heterocyclic cpds. and their salts are new; R1 is H or benzyl; R2 is H, COR3 (R3 is H or 1-3C alkyl) or phenyl; X is -CO-, -CS-, -C( $\mp$ NH)-, -CHR4- (R4 is H or 1-3C alkyl) or -N(phenyl)-; Y is -CH2-, -CH2SO2-.-CO-, -CONH-, -NR5- (R5 is H, or 1-3C alkyl), -NHCO-, O or S or X-Y is -C(R6)=N- or -N=CR6- (R6 is H, 1-3C alkyl, morpholino or phenyl), 1,2-phenylene or 1,2-phenylene-SO2-. (I) (R2=H or COR3; X=Y=-CH2-) may be prepd. by reacting 4-benzyloxy- 3,5-diisopropylbenzaldehyde with N-acylpyrrolidones in presence of NaH or KOH to give 3-(4-benzyloxy-3,5-drisopropylbenzylidene)pyrrolidone, and if required to hydrogenely-sis with Pd-C to give (I) (R2=H) and then to acylation with R3COOH or its derivs. to give 1 (R2=COR3). USE/ADVANTAGE - (I) are useful as anti-allergic agents or tyrosine kinase inhibitors. LD50 in mice: no lethal case observed at 1000 mg/kg or higher in oral admin. (I) may be administered orally or rectally or parenterally in a form of tablets, capsules, granules, syrup, suppositories, ointment, injection, etc., at a daily dose of 10 mg-10g, (20mg-5g) for an adult. 0/0 Title Terms: NEW; DI; ISOPROPYL; BENZYLIDENE; HETEROCYCLE; COMPOUND; ANTIALLERGIC; TYROSINE; KINASE; INHIBIT; ACTION Derwent Class: B03 International Patent Class (Main): C07D-207/444 International Patent Class (Additional): A61K-031/40; A61K-031/415; A61K-031/42; A61K-031/425; A61K-031/495; A61K-031/505; A61K-031/54; C07D-207/333; C07D-207/44; C07D-209/34; C07D-231/20; C07D-233/96; C07D-239/54; C07D-241/18; C07D-263/44; C07D-277/34; C07D-277/36; C07D-279/12; C07D-279/16

File Segment: CPI